

(西暦) 2018年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

作業が新卒2年目の勤労者のメンタルヘルスに影響するプロセスとその意味づけ

学位の種類: 修士 (作業療法 学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻

作業療法科学域

学修番号 17896602

氏名: 荒木 瑞希

(指導教員名: 谷村 厚子 准教授)

はじめに

近年、経済・産業構造が変化する中で、仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じている労働者の割合が多くなっている。新入社員は、環境の変化による強いストレスが予測され、作業が新卒2年目の勤労者のメンタルヘルスに影響するプロセスとその意味づけを深く検討することで、新入社員がどのようにメンタルヘルスの保持増進をしてきたのかが明らかになると考える。

本研究の目的は、作業が新卒2年目の勤労者のメンタルヘルスに影響するプロセスとその意味づけを質的に分析することで、新入社員がどのようにメンタルヘルスの保持増進をしてきたのかを明らかにすることである。

方法

研究デザインは、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Modified Grounded Theory Approach: M-GTA) を用いた質的研究を採用した。研究対象者はスノーボールサンプリング法を参考に募集し、関東地方に在住または勤務する5業種14名の新卒2年目の勤労者であった。なお本研究は、首都大学東京荒川キャンパスの研究安全倫理委員会の承認をもって実施している (承認番号: 17108)。

インタビューは2回の半構造面接を基本とし、1回目はインタビューガイドを用いた半構造面接を行い、2回目では1回目インタビューの逐語録を研究対象者本人に見せ、解釈の確認や追加の質問を行うこととした。

結果

本研究では、分析焦点者を「新卒2年目の勤労者」、分析テーマを「新卒2年目の勤労者のメンタルヘルスに影響する作業」とした。分析をすすめ最終的に21の概念を生成し、さらに6つのカテゴリーを生成した。

新卒2年目の勤労者は、【仕事の原因でストレスを感じる】があっても、【メンタルヘルスを保つための適切な方法を見つけ出すコツ】を参考にしたり、【生活習慣・環境に影響されながら作業を選択】していきながら、【心の新陳代謝を促す】か【心の余裕を確保する】の作業を遂行し、【メンタルヘルスを保ちながら仕事を続けて】いた。

考察

今回対象となった新卒2年目の勤労者は、仕事に関する作業や、仕事以外の遊び、休息、日常生活活動など、それぞれの作業に応じて必要な意味を持たせ、作業を使い分けていた。

作業療法領域から勤労者のメンタルヘルス不調の一次予防およびメンタルヘルスの保持増進に貢献する可能性として、仕事・遊び・日常生活活動それぞれの作業の意味を捉え、作業の探索の支援ができるのではないかと考える。また、勤労者が現在置かれている状況だけでなく、過去や生活習慣、環境からメンタルヘルスを考え、その人にとって有用な作業を提案できるのではないかと考える。